

# 第61回東海村地域福祉計画推進会議 議 事 録

作成：福島

- 1 日 時 令和3年12月20日（月）午後5時30分～午後7時30分
- 2 場 所 205会議室
- 3 出席者 ・地域福祉計画推進会議委員 10名（欠席：松井委員，本田委員）  
・アドバイザー：稲垣美加子先生（淑徳大学教授）※Web会議出席  
・事務局：古川課長，山口補佐，渡邊係長，黒羽主任，飛田主任，福島

## 結 果（要点）

### （1）東海村重層的支援体制整備事業実施計画（案）について

事務局から重層的支援体制整備事業の概要について説明を行った後，各グループでグループワークを行い意見等を出し合った。

事務局から配布資料「東海村重層的支援体制整備事業実施計画（案）」について説明を行った。

⇒計画案について意見があれば，意見書に記入の上，12月28日（火）までに事務局へ提出する。

### （2）地域福祉に関する啓発ポスターについて

事務局から配布資料の説明を行った後，啓発ポスターの改善点等意見を出し合った。

### （3）その他

次回日程は令和4年2月18日（金）

## 1 開 会

### 2 事務局あいさつ（古川課長）

本日は年末の御多忙な折にも関わらず、地域福祉計画推進会議に御出席下さり心から御礼申し上げます。委員の皆様には、先日の東海やったん祭において、寒い中「地域福祉計画こども版」の啓発活動に御参加下さり重ねて御礼申し上げます。

また、アドバイザーの淑徳大学・稲垣美加子先生には、年末及び冬期休業前の貴重なお時間、リモートで御参加いただき、御礼申し上げます。

本日の会議日程を決めていた頃は、新型コロナウイルスの感染者も茨城県内でゼロという日が続き、安心して調整を進めていたが、ここにきて県内でも1桁ではあるが、連日感染者が報告されるようになってきた。年末年始は、人と人の接触が増えるので今後の感染者の状況を注視したい。

本日は、今年度2回目の推進会議である。議事の「重層的支援体制整備事業」は、社会福祉法の改正により創設されたものである。地域住民が抱える課題が複雑化・複合化していることが背景にあるもので、この「第4次東海村地域福祉計画」にも位置付けるものである。内容については、このあと議事の中で説明をさせていただくとともに、皆様で話し合っていく時間も予定している。そのほか、地域福祉に関する啓発ポスターを検討しており、委員の皆様から御意見をいただきたい。

この推進会議は、幅広い年齢層の方々に構成をしている。年代を問わず、多くの御意見を賜りますようお願いし、御挨拶とさせていただきます。

### 3 委員長あいさつ

皆さんこんばんは。オミクロン株が話題となっているが、執り行わなければならない会議は、警戒を怠らず、進められればと思う。

このような会議において、人と人との交流は非常に重要なことであると考えてるので、この会議が無事開催されることを幸せに思う。

本日の議題は、重層的支援体制整備事業実施計画となっており、気負いするような難しい議題であるが、事務局から説明があるので、委員皆で自分のことと捉えて検討できればと思う。本日も楽しく議題が進むようよろしく願います。

### 4 アドバイザーあいさつ（淑徳大学教授 稲垣美加子先生）

皆さんこんばんは。本来であれば会議の場に伺いたいところではあったが、東京でも新型コロナウイルスの感染状況があることと、学生たちの実習が再開したこともあり、日程が合わずリモートでの参加とさせていただきます。

オミクロン株の発生を踏まえて、感染症を正しく理解することが重要である。軽んじてもいけないし、過敏になってもいけない。適切な知識を得て、適切に対処していくことが重要である。

故きを温ねて新しきを知るという言葉があるとおりに、わが国では感染症に適切に対応してきたキャリアがある。

コロナによって拡大している貧困問題も振り返って見れば、第二次世界大戦後や様々

な経済問題が生じた後など、経験してきたことである。キャリアを重ねてきた委員の皆さんは、このような事象を経験していない若い世代に過去の経験や今日の日本をどのように作って来たのかをぜひ伝えていただきたい。

この会議の良いところは、多世代参加である。この会議の中でそのような経験等を伝えていくことができれば幸いである。本日はどうぞよろしくお願いする。

## 5 議 事

### (1) 東海村重層的支援体制整備事業実施計画（案）

事務局から重層的支援体制整備事業の概要について説明を行った。

【グループワーク 1：ひきこもりの当事者は自分の現状をどのように考えるか。】

#### B班の意見

- ・不安な気持ちが大きいと思う。
- ・助けてほしいけど中々言い出せない。
- ・現状に負い目を感じ、自分を責めるのではないか。総じて自分を責めるのではないかという意見が多かった。
- ・悪い状況が連負し、負のスパイラルに陥ってしまう。
- ・ひきこもりは、誰にでも起こりうる問題である。

#### A班の意見

- ・当事者は、そっとしておいてほしいのではないか。そのため、周りは見守ることが大切だと考える。
- ・当事者の気持ちは、一人になりたい、人と距離を置きたいではないか。
- ・現状が自分でもわからない。
- ・一人一人に合う助言は難しい。ひきこもりのきっかけは十人十色。そのため対応も十人十色なのではないか。

#### 稲垣先生

- ・自分がそうになったら怖くなる。何がきっかけでそうなるかわからない。現にひきこもりの当事者となっている人は、まさか自分がと思っている人も少なくない。
- ・ひきこもりや不登校には、意外に簡単な理由でなることが多い。例としては、「少し休んでみたら誰からも何も言われなかった。」、「少し休んだら意外に楽だった。」などといった経緯で、結果として家から出られなくなってしまうことがある。
- ・それに対して、「すごくつらい体験があつて出ることが怖くなった。」、「つらい体験をして人と接することができなくなった。」という方もいる。
- ・ひきこもりの原因は人それぞれなので、周りの接し方が重要となる。
- ・ひきこもりのきっかけは様々であり、プロセスも様々である。また、人によって感じていることも違う。委員の皆さんの話し合いを聞く中でそれを再確認することができた。皆さんが話してくれたとおりに、“私のまわりには”などと自分のこととして話す姿勢が大切である。

【グループワーク 2：ひきこもりの当事者に対して何ができるか。何に悩んでいるか。】

**B班の意見**

- ・まずは本人の話をよく聞く。
- ・登校するために何ができるか一緒に考える。
- ・学校に様子を聞く。
- ・楽しいと感じること・できることを一緒にやる。
- ・自分の子なら責めたり焦らせたりしてしまうことがあるのではないかという課題も挙がった。

**A班の意見**

- ・まずはそっとしておく。一緒に行動をする。寄り添う。当事者が興味のある趣味等の時間を共有して、関係性を築く。
- ・敏感な話題は避けて、あいさつなどから関係を築く。
- ・様子を見ながら声かけなどを行い当事者を見守る。

**稲垣先生**

- ・両グループから話が出たとおり，“あなた”がひきこもりの当事者に対してどのような立場なのか，その関係性によって，感じる事，できる事は変わってくる。
- ・Bグループから「自分の子どもだったら」と仮定の話が出たが，対象者が親族であると適切な対応ができないことがある。
- ・私自身，自分の家族となると対応することができない・話を聞くことができない状況に陥ることがある。それに対して，他人の話や友人の話なら聞くことができる。落ち着いて考えることができる。そこからわかることは，対象者との関係性によって感じ方やできることが変わってくるということである。

【グループワーク 3：ひきこもり当事者が家族だったらどのような機関または人に相談するか。】

**B班の意見**

- ・B班では，当事者の親という設定で議論を進めた。
- ・自分の親兄弟には心配をかけるから相談しづらい。そのため，子育てをした先輩に相談すると思う。
- ・子が不登校だった方の体験談を聞いて，自分なりにできることを模索する。
- ・専門職のスクールカウンセラー，教育支援センターの職員，担任の先生等に相談する。

**A班の意見**

- ・子の友人や担任の先生に相談する。
- ・友人の経験談であるが，担任と馬が合わない時，誰に相談すればよいか悩むことがある。担任でなくても，仲の良い先生や塾の先生など心許す大人に相談した結果，解決したことがあった。

**稲垣先生**

- ・当事者の声が聞けることは大切なことで，大学でも学生の相談を受ける際，担当していない教員がフォローをすることがよくある。相談をしなければならない教授の研究室の少し離れたところにウロウロしている学生がいて，教授の部屋をノックできないでいる。それに気が付いた担当でない教員が橋渡しをしたり声かけを行うこ

とがある。

- ・大切なことは，“どのような人”に“何をしてほしいのか”ということである。そばにいてほしい，話をきいてほしい，愚痴をきいてほしい，助言をしてほしい，指示を出してほしいなど当事者が欲する対応は様々である。どのような人に何をしてほしいのか，この組み合わせによって様々な対応が必要となるため，色々なものが多様に必要となる“重層”という言葉に結び付く。一人もしくは一つの機関がオールマイティに対応することは難しい。対象者に対して，どのような支援が必要かということをチームで考えていく仕組みを重層的支援体制整備事業という。

#### 【重層的支援体制整備事業実施計画（案）】

事務局から重層的支援体制整備事業実施計画について説明を行った。

案に対して，気づきの点等あれば，12月28日（火）までに意見書を提出いただきたい。

#### 稲垣先生

- ・地域共生社会や重層的支援体制整備事業等は，コロナ禍において格差が拡大し，地域課題が顕在化したことで，対策として新たに取組みを進めるものではない。
- ・コロナ禍の影響で，少し頑張れば何とか自立できていた人が，自立するために働いていた場所が無くなってしまったことで生活が立ち行かなくなっている。そのような方たちは，今までの公的なサービスでは対応できない。これまでの公的サービスは，真に困っている人たちでないと使うことができない制度のためである。
- ・このような状況下で一番大切なことは，声にならないサインに気づいて本当に困る前に手を打つことである。国が従来整備してきた事業は，具体的に困ることが分かった後にたどり着く窓口の一覧となっている。このような制度下では，真に困る前に対応することは難しい。
- ・それに対して，支援が必要であるにも関わらず支援が届かない人へ，積極的に支援を届けるプロセスをアウトリーチという。アウトリーチというのは，外に手を伸ばしてたどり着くという意味があるが，「あのお家のポスト，新聞がなくなるぞ」などと相手のことを気に掛けることができる状態を指す。役場や社協，地域包括支援センターなどにいる専門職であれば，外に出かけて行って，外にいる困りごとを抱える人たちにたどり着くことをいう。そこまで重装備で行くのではなく，普段の生活の中でふと気がついて，いつもの無関心を乗り越えて，無関心の外に自分の関心を伸ばしてみたら，お隣さんが困っている状況であることに気がつくことができる。アウトリーチ等を通じた継続的支援は，このような地域住民のつながりから相談者を見つけることができる状況を指す。本日皆さんが話し合ってくくださったように，気づくことは，専門職よりも身近にいる人の方が発見に至ることが多い。そのため，専門職だけでなく，委員の皆さんと一緒に考えたいテーマであると考えます。
- ・さらに，協働と連携の違いを考えていただきたい。連携というのは，元々同じ目的を共有する人らがその関係性を有することをいう。協働というのは，同じことをしていなかった人たちが気づいて，その新しい気づきのために一緒に力を出し合ったり協力しあったりすることをいう。それぞれの法律，職場の中で頑張っているのだ

けれど、ほかの人がやっていることは気づいているが、一步踏み出せないでいる状況が役場や各専門職がいる職場の現状である。「対象者のために何かできることがあるぞ」と思ったら、法制度や自分の所属する組織の枠を越えて新しく取組みを行っていきましょうというのが協働である。

- ・地域福祉計画を考える上で、連携と協働を使い分けることで何をどのように進めたらよいか、良いアイデアが浮ぶのではないかと考える。

## (2) 地域福祉に関する啓発ポスターについて

- ・事務局から配布資料の説明を行った。

### 各委員及び稲垣先生からの意見

- ・写真は現実味がありすぎて暗いポスターになるのではないかな。
- ・イラストを話の流れがわかる四コマ漫画にしてみてもどうか。
- ・計画のPRとともに中学生、高校生などからイラストを募集してはどうか。
- ・吹き出しの言葉は、方言等を使用してはどうか。標準語でまとめるより普段使用している言葉や日常のエピソードを盛り込むと伝わりやすいのではないかな。
- ・イモゾーフアミリーの年齢に合わせてエピソードのバリエーションを増やしても良いのではないかな。例としては、登場人物の年齢に応じた問題などを四コマに表す。

## (3) その他

- ・次回日程は令和4年2月18日(金)

## 6 閉 会